

うめナビ

2012.9
Vol.6

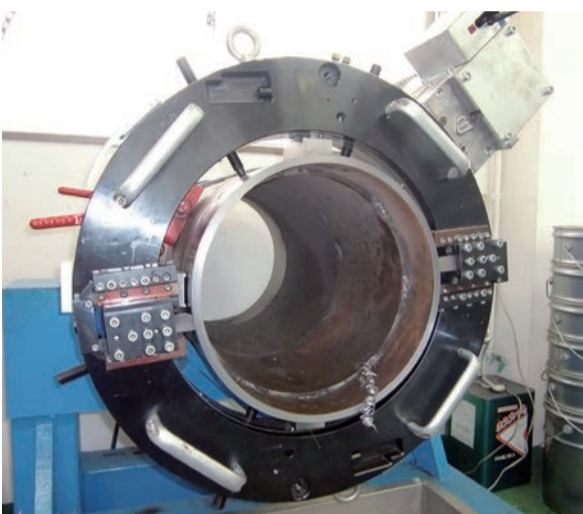
業界初の 回転ケーブルレス 自動溶接装置

ポータブル切断・開先加工はおまかせ
カッタランドジャパン(大田区西六郷、森健一社長、03・6424・9684)は、各種発電所メンテナンス工事用機械(主に配管切断・溶接機器)の製造・販売を行っている。



新商品の回転ケーブルレス自動溶接装置

カッタランドジャパン



主力商品のカッタランド

同社の主力商品は社名にもあるカッタランド、即ち、パイプ切断の際、突切り加工から開先加工まで一貫した切削作業のできる開先加工機である。各カンナ台の付け替えだけで突切り、端面、内径、開先加工全ての切削作業が可能だ。加えて、同社の顧客ニーズに応じた対応力により、大手プラントメーカーを始めとして、取引先の信頼は厚い。

同社では、現状に満足せず、新たに業界初の回転ケーブルレス(RCL)自動溶接装置の開発・実用化に成功(特許申請中)。同製品は、従来機のようにケーブル・ホース類を配管に巻き付ける必要がないこ

とが最大の特徴であり、ケーブル・ホース類を巻き付ける際に起こる断線や輻射熱による影響もなく、機械の取付け・取外しもワンタッチで行えるため、作業時間を大幅に短縮させることを可能にしている。

森社長は、機械工学を学んだ後、営業畑で取引先とのパイプを構築し独立。同社は、卸売りから製造業へと業種の転換を進め、主力商品にこだわらず、取引先のニーズに合わせた設計・製造が出来ることを武器として成長を続けている。森社長は、「社員は自分を含め3人のみだが、顧客のニーズに即対応できる体制を整えており、その品質は他社に負けない自信がある。新製品は海外の事業からも引き合いがあり、今後拡販を狙っていききたい」と意気込みを語る。

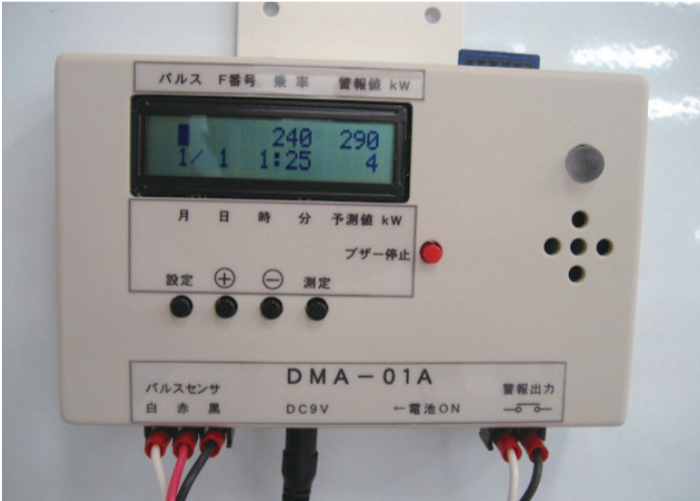
企業向け、工場向けの節電商品を開発 簡単操作、低価格、有線方式による 確実な計測を実現

GAIA(相模原市中央区上溝、中根重弥社長、042・758・1714)は、1985年設立以来、プリント基板の設計、基板製作、電子部品の実装、ケース加工、組立を中心に事業を展開してきた。

同社は、この度、企業や工場向けの画期的な節電商品を開発した。その名も「デマンドアラーム」。商品の開発に至った経緯は、工場ラインにおける制御装置、監視カメラなどを中心に手がけている取引先企業が、昨年の東日本大震災に伴う電力不足により、節電対策に苦労しているのを見て、「自分に何か出来ることはないか。分かりやすい形で節電を進められないだろうか」。そう思い立ったのがきっかけ。もともと企業や工場は、一般家庭よりも電力の消費が激しい。

そこに着目し、①簡単操作、②低価格、③有線方式で確実な計測の3つのテーマのもと製作された。商品名にある「デマンド」は、直訳すれば(電力の)需要という意味だが、具体的には、高圧受電しているビルや工場などの30分間の平均使用電力、とりわけ、1カ月の最大の数値のことを「デマンド値」と呼んでいる。

使用方法は簡単。電力量計にパルスセンサを取り付け、信号線



新商品の「デマンドアラーム」。設定値を超えると警報が鳴る

により同商品と接続し、設定された電力量を超えるとアラームにより知らせてくれる。信号線については100メートルまで延長可能で、電力量計と工場、事務所が離れていても十分取り付けることができる。また、SDカードによりデマンド値を記録し、200日分の使用電力推移を確認できる。取扱説明書については、写真やイラストをページ制限なく使えるCD-ROMを使用。「少しでも分かりやすいものを提供したい」と考えている。

震災から1年半たった今でも節電に関する意識は高まる一方だ。同商品が節電への一助となることは間違いない。へ一般小売価格66,150円(税込)

GAIA

うめナビ 送付先業種

- 
 商社
5先
- 
 スーパー・小売・百貨店
10先
- 
 メーカー
17先
- 
 マスコミ
49先
- 
 教育(大学・専門学校)
28先
- 
 公共機関
11先
- 
 ホテル
14先
- 
 金融
18先
- 
 建設関連
13先
- 
 システム関連
10先
- 
 その他
67先

合計
242先

※本誌は、城南信用金庫のお取引先に配布する他、商社、百貨店、スーパー、メーカー、マスコミ、大学等にもお届けしています。

人工透析医療の新しい試み 厚木の 青年医師による挑戦

高野クリニック

高野クリニック(厚木市旭町、高野秀雄院長、046・227・1177)は、本厚木駅から徒歩5分にある糖尿病・腎臓疾患を中心に診療する内科医院である。高野院長は、東海大学病院腎内分秘代謝内科に所属、同院高度救命救急センターに出向後、機関病院で人工透析センター長を務め、現在に至っている。

現在、高野院長が力を入れてるのが、人工透析医療の新しい連携確立である。人工透析とは、腎臓機能の代替となる人工腎臓のことであり、末期腎不全となった患者への医療で、自分の腎臓機能では不十分な老廃物の排除や体内水分量の調整を行い、血圧の調整をもつかさどるものだが、生命維持の為に、生涯継続が必要な医療である。

そのような透析医療には、数々の問題点があるが、中でも医師不足と患者の高齢化、それに伴う寝たきり患者の増加があげられる。「地方では担当医師不在の施設がある。寝たきりになれば通院が困難となり、患者さんは勿論、付添い

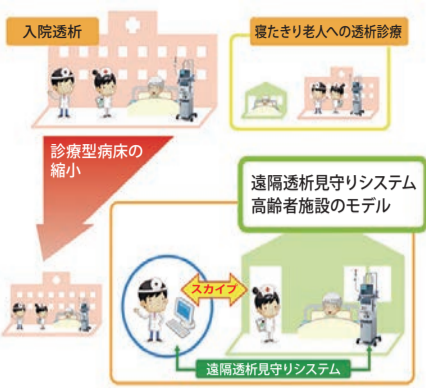
の家族の身体的、経済的負担は大きい」と高野院長は語る。そのため、高野院長が企画立案しているのが「人工透析見守り支援システム」である。このシステムは、テレビ電話による会議機能と、透析周辺機器や患者の採血、画像、服薬内容等の医療情報をリアルタイムで管理、情報交換するシステムであり、離れた場所にいる透析患者と透析医師をオンラインネットワークで結び、安心して透析治療が受けられるものである。

実証事業では、通常のクリニック診療の傍ら、透析医師不在であった大島医療センターのスタッフと休憩時間に定期会議を月2回、また緊急時の医療対応を行った。透析医師の負担増に対する懸念もあつたが、「異常時の緊急コールはさほどなく、大した負担にはなりません。むしろ、患者さんやスタッフから安心感への評価をいただくことで張り合いになります」。

透析医師不在の病院や、既存の居宅型老人施設、賃貸用不動産の

入居状況の悪化が問題である施設、これから建築予定の賃貸施設等において、このシステムを導入することによって、患者や家族の負担軽減につながったり、賃貸用不動産の大きな付加価値として施設運営の良好な経営にも寄与するものと考えられる。

お問い合わせは管理会社の「テレメディック」まで。
(<http://www.telamedic.co.jp/>)



鶴見から世界へ羽ばたけ!! 体と心の成長を 支援する体操クラブ

鶴見総合体育研究所

鶴見総合体育研究所(横浜市鶴見区下末吉、白井勝晃代表、045・583・7602)は、幼児の体操教室から本格的な体操選手を目指す子供、さらにはダンス教室等、幅広い年齢層の方が利用できる地域密着型の体操クラブである。

先日行われたロンドン五輪では、日本勢のメダルラッシュで列島の興奮冷めやらぬ中、体操の内村航平選手が個人総合で金メダルを獲得。かつて体操ニッポンと言われ、日本が世界の頂点を極めた時代から離れて久しいが、その間も復活を誓い、努力を重ねた結果が実を結んだということ、改めて体操が世間から注目を集めているところである。

その中でも、白井代表は、「体操はすぐに上達するものでなく、コツコツと練習することが必要であり、そこで培われるのは体力の向上だけでなく、精神力、忍耐力など心の勉強です。挨拶作法、家族や

先生、友人だけでなく、体育館器具に至るまで感謝の気持ちを持つこと。そういった人やものに対する優しい気持ちを育てることが大切です」と語る。実際、同クラブの体育館を訪れると、すれ違う子供たちから掛けられる「こんにちは!!」という真つ直ぐで、元気な挨拶は、白井代表の言葉がしっかりとクラブに浸透していることを感じさせる。

現在の会員数は、650人。幼稚園や保育園の体育指導を含めると1200人にも上る。白井代表は元々教員であったが、教職の傍らで体操を教え、小さな体育館から始めた体操教室が現在の規模に至るまでになった。10月には下末吉に第二体育館が完成。一号館では主にジュニア層の指導にあたり、二号館では新たに中高年に向けたアンチエイジングのプログラムを扱う予定だ。「やるからには子供だけでなく中高年まで全て。地域全体が元氣になれば」と白井代表は目を一層力をこめて夢を語る。



白井代表と同クラブの生徒

最後に白井代表から一言。「体操とは、『身体を操作する』と書きまます。運動から日常生活に至るまで、生きていく限り、いつまでも体操しなければならぬ。身体は使わなければダメになってしまう。何かを理由にして、コツコツやるべきことをないがしろにしてはいけません。使うほど身体は強くなる。日々体操を取り入れ、健康で元気に頑張りましょう!」

職人の「心」と磨き抜かれた 「技」で高品質な価値を提供 取引先の悩みを聞き、できるまで挑戦する

村澤製作所

村澤製作所(世田谷区奥沢、村澤康秀社長、03・3723・0620)は、昭和38年に先代がプレス加工によるカメラ部品製造を皮切りに創業し、昭和48年7月に法人設立。現在は、職人の長年培われた経験と技により、デジタルカメラの周辺精密部品、胃カメラなどの医療機器部品等の小型、軽量の超精密部品の製造を行っている。

高度経済成長とともに、日本のお家芸ともいえるモノづくりの職人技を磨き、ますます高度化する光学部品や電子部品、医療部品分野のニーズにきめ細かく対応できるように、より微細で精密な加工に絶えず挑戦している。一般的に精密部品の製造過程では設計、金型の製造、部品の加工などのそれぞれ独立した会社が請け負っているが、同社では、全てを一貫して対応することができ、多品種少量生産にこだわりの、その金型の数は1500にも及ぶ。

同社は、仕事に対する心構えとして、「目先の大量受注、利益に振り回されるな」「メーカーや担当者が悩んでいることを親身に聞き、相談してあげること」そして「その悩みを商品にすべく最後まで諦めずに挑戦して要望に

応えること」を掲げている。これは、先代からの教えを、村澤社長が忠実に受け継いでいるものだ。零細企業では、後継者問題などにより、高度な加工技術を持つ事業先が廃業に追い込まれている。そのため、代わりに製品の製造を引き受けてくれないかとの依頼が増加しているが、村澤社長は、同業の仲間を心から心配して、たとえそれが難しい依頼であっても「な

今日、多くの日本の大手製造業が、中国、ベトナム、フィリピンなどに海外移転しており、同社にも東南アジアへの進出の話もあつたが、断固として断っている。プレス技術の「職人技」と、目先の損得ではなく人との出会いを大切にしている「職人気質」。これこそが、同社が、今日もあくまでもプレス加工による超精密加工の可能性に挑戦し、新しい価値を創造し、発展し続けている原動力である。



「最後まで諦めずに挑戦する」と村澤社長



職人の「心」と磨き抜かれた「技」が同社の強み

命を繋ぐための食を求めて 旬の野菜を生かした フランス料理店

オーヴィューフランス

ジャンクフードやファーストフードのような空腹を満たすものではなく、命を繋ぐための食をコンセプトに開店したオーヴィューフランス(川崎市宮前区宮崎、高見政男オーナーシェフ、044-854-3911)は、生産者の方が丹精込めてつくった食材はもろろんのこと、生産者の心やポリシーを大切に、本当の意味での「健康的なフランス料理」をお客様に召し上がっていただきたいと願っている店だ。



店内は家庭的な雰囲気か漂う

同店は、昔ながらの野菜の味をお客様に味わっていただきたいという思いで、「素材の個性を生かした料理」を提供しており、季節の野菜をふんだんに取り入れた料理はお客様から評判だ。

野菜の仕入先は、有機農業を営んでいる大分県の実家。「本当に美味しい野菜を得るためには、まず健康的な土づくりから始まる」と高見シェフ。食害をなくすために殺虫剤を散布したり、化学肥料の力で無理矢理成長させる安易な方法とはスタート地点が違う。植物は、バクテリアの存在無しには生きることは出来ないが、そのバクテリアの



料理は季節の野菜をふんだんに取り入れている

「町の美味しいもの屋さん」でありたいと願う高見シェフ。母から送られてくる野菜をどのように生かすかを考え形にする。今の子供たちが大人になったときも忘れられない野菜の味と料理となるだろう。詳しくはホームページに(<http://french-food.jp>)

50年以上に亘り、地元の子供たちを 育ててきたそろばん塾 将来の日本を「そろばん」が支える

啓明学院

啓明学院(品川区西品川、知井邑雄学院長、03-3492-0961)は、珠算教室として昭和31年に設立、以後56年もの長きに亘り、地元の子供たちの教育に深く携わっている。知井学院長は、社団法人全国珠算教育連盟の理事長も務めた経歴の持ち主だ。

学校の基礎教育は「読み書き」「計算」だが、日本の児童の計算力は年々低下傾向にあり、九九を間違えて覚えたままの児童は多いとのこと。電卓の機能面を重視した結果、そろばんによる珠算学習の有用性が軽視されていることも関係しているのだから。

珠算学習は、計算力・暗算力を高めるだけでなく、子供たちに様々な能力を身につける機会を与える。「集中力」：珠算は、数字を記録する作業の連続であり、素早く判断し実行できる集中力が養われる。

「忍耐力」：珠算は、繰り返し反復練習することが必要であり、嫌がらず我慢できる忍耐力が身につく。「積極性」：努力をすれば、珠算は必ず上達するものであり、検定に合格するたびに達成感ややる気、やればできるという気持ちを生み出し、積極性を身につけていく。引いては、心が豊かになり精神面の成長を促していくこ



集中して珠算に取り組む子供たち

「現代の子供たちは与えられているものが多く、自主性に欠ける面がある。珠算教育を通じて、地域の子供たちの人格形成に努めている」と強い自信を持って取り組んでいる。

お客様の気持ちも 晴れやかに 誠心誠意きれいにします

ゼネラル産業



後のお客様からの何気ない「ありがとう」の一言が嬉しく、社員全員が感謝の気持ちを忘れずに「きれいにして喜んでもらう」をモットーに「きれいな場所」を心掛けています。

ゼネラル産業(世田谷区上用賀、田中武雄社長、03-3700-6031)は、ビル・マンション清掃を行い、一般企業、官公庁を顧客としている。

清掃業を始める以前は証券会社に勤務していたという異色の経歴を持つ田中社長は、隔々まできれいに、「お客様に喜んでもらうことが最も満足感を得られる」と語る。

昭和39年の創業以来、48年の歴史の中で培った経験を活かし、きれいにしたい箇所の材質に合わせた洗剤や保護剤を使い分け、塗布するので、どんな場所や材質でも相談に応じることができる。

「しかし、どれだけ良い洗剤や器具を使用しても、それを使う人間次第で、清掃後の仕上がりに大きな差が出てしまう」と田中社長は話す。最も重要なことは、お客様を思い、丁寧な心を入れて清掃すること、常にそうした気持ちを持ってお客様に接するよう従業員には徹底をしている。

「きれいな場所が働く気持ちもきれいになる」――清掃業務完了



「お客様からの『ありがとう』が何よりの喜び」と田中社長

世界へ羽ばたく サーマルダイレクトプリンター 安全・環境・省力化を提案

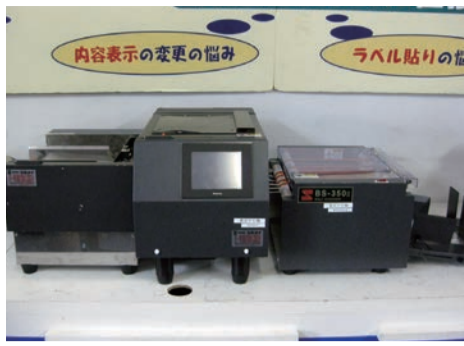
シンメイ

シンメイ(台東区台東、吉井貞夫社長、03・3831・3921)は、産業用の各種プリンター・ラベラー・押印機の開発・販売・保守を業としており、取引先は、食品業界から、銀行、病院、鉄道、官公庁と幅広い。電車の遅延証明書の発券機や冷凍食品などのフィルム印字、手形小切手への署名捺印機など、ニッチな市場に定着するための確かな技術力を備え、様々な業界・企業を相手にビジネスを展開している。しかも、通常では商品開発に2年ほどかかる所、素早い機動力を駆使して2カ月程度で対応できる強みを持っている。



「不可能を可能にする」をモットーとしている吉井社長

「環境」「省力化」の三点を掲げている。同社は経営理念として「安全」「安全」については、食品品の印字システムでは賞味期限の印字等に正確性を求められるため、日付が間違っていないかをチェックする機能を開発した。停電や落雷等に起因するシステム障害についても、対応できる機能を構築するなど、



当社の主力商品サーマルダイレクトプリンター「CPS-354PROII」

吉井社長は、「どこにでも当社のビジネスチャンスがある」と言い、今後の開拓市場として中国、東南アジア等海外に着目している。環境にやさしい印字システムは海を渡りそうだ。「固定観念にとらわれず、不可能を可能にする」というモットーで、今後もお客様のニーズに応えたい。どんなことでも相談して欲しい」と熱い想いを語ってくれた。
<http://www.co-shimmei.com>

江戸時代より五代続く老舗の納豆屋さん 世田谷区で唯一つくられている こだわりの納豆

日の出納豆製造所

政治家や芸能人が多数居住する高級住宅街の世田谷区深沢で、昔ながらの手法で納豆を製造している日の出納豆製造所(世田谷区深沢、堀江信一社長、03・3701・1402)は、江戸時代末期、創業者が納豆の一大生産地であった宮城県で納豆をつくり始め、先代が半世紀前に「竹やぶだらけ」の当地に移転し、現在の堀江社長で五代目を数える老舗納豆屋である。

良い納豆をつくり続ける秘訣は、「良い大豆を使い、材料の妥協は一切しない」「温度管理をしっかりと」「衛生面を徹底する」の三原則を堀江社長自らが中心となつて、家族、従業員に厳しく徹底させていることだ。

特に、主材料である大豆の品質にはこだわりがあり、使用する大豆は硬くて味の濃い国産大豆と、柔らかく甘みのある中国産大豆を商品によって使い分けており、それぞれの商品に合ったタレもオリ



同社の商品ラインナップ。それぞれ味も菌ごたえも異なる

ジナルで作成し、お客様に満足していただける様、徹底的にこだわりの製造されている。

また、衛生面も徹底されており、大豆を発酵させる室内において、一つの作業ごとに手や道具・床などを熱湯消毒し、雑菌の繁殖を防ぐという地道な作業を日々続けている。

こうした職人の手によって心を込めて作られた商品は、業界内でも高い評価を得ており、過去の「全国納豆鑑評会」において優秀賞を受賞する程であり、地元の方々からは「世田谷区で唯一つくられている納豆」として親しまれている。同社の商品は都内の高級スーパーで購入することができるが、堀江社長曰く、「納豆は古くからある日本古来のインスタント食品。もつと手軽に皆さんに食べて欲しい」とのこと、同社工場内で直販も行っている。



三原則を胸にこだわりの納豆をつくり続ける堀江社長(右側)と堀江博営業部長

「住み手」「つくり手」「まち」「森」「地球」 みんなにやさしい 木づかいの家を

河合工務店

河合工務店(中野区中野、河合稔社長、03・3362・6492)は、設立30年を迎える住み手も、つくり手も、健康になる家づくりを志向する木造建築会社である。

同社が、他の工務店と一線を画すのは、「つくり手」にも配慮した家をつくることだ。「建築現場で働く自分たちの健康を害する化学建材は、当然、全ての人にとって良くない。だから身をもって使わない」という家づくりの専門家としての強い信念と高い誇りを持つ。

同社の家づくりでは、国産の低温乾燥された無垢材を使用。100%自然素材の断熱材や調湿性のある壁材、蜜蝋のワックスなど、目には見えない家の隅々にまで厳選した建材を使用し、集材材や合板を一切使わない。「こうした家づくりは、安全面や自然環境へ配慮できるだけでなく、木の温もり、肌触りの良さ、香り、美しい空気の中で心身ともに健康な生活をスタートさせる第一歩であり、本当に健康な住宅、次世代に責任のある家づくりを提案したい」と、社長は強く語る。

木をとことん知り尽くした職人たちが、杉、檜、赤松、栗などの内装材を含め、自



同社の手掛けた木造住宅



内部の目に見えない部分も抜かりは一切ない

東京ドームで 出会う、つながる、ビジネスが広がる。

2012国際協同組合年事業



日本を明るく元気にする “よい仕事おこし”フェア

63の信用金庫の共催
によるフェアを開催!

入場無料

\\ 自然エネルギーによる
安心できる社会へ //



東北を
明るく元気に!

●日時:平成24年11月1日(木) 10:00-18:00

「ビジネス展示・商談」「東北特産品等の展示・即売」「行政・教育機関等の特別展示」

「東京ドーム」になんと630ブースが出展! 東北の企業も多数出展!

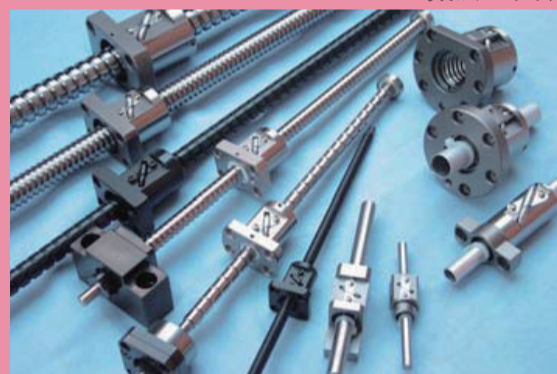
※写真はイメージです。



東京ドームでフェアを開催!



ビジネスエリアには421ブースを展示!



ものづくりにかける意気込み!



東北特産品の展示・即売!



被災地の子供たちの「書」の展示!



自然エネルギーによる安心できる社会へ!

共催(五十音順)

- | | | | | | | | |
|---------|---------|----------|----------|----------|----------|-----------|----------|
| 会津信用金庫 | 青い森信用金庫 | 秋田信用金庫 | 朝日信用金庫 | 足立成和信用金庫 | あぶくま信用金庫 | 石巻信用金庫 | 一関信用金庫 |
| 羽後信用金庫 | 青梅信用金庫 | 大阪信用金庫 | 大阪市信用金庫 | 大阪東信用金庫 | 岡崎信用金庫 | 亀有信用金庫 | 川崎信用金庫 |
| 北上信用金庫 | 岐阜信用金庫 | 京都信用金庫 | 京都中央信用金庫 | 気仙沼信用金庫 | 興産信用金庫 | 郡山信用金庫 | コザ信用金庫 |
| 小松川信用金庫 | 西京信用金庫 | さわやか信用金庫 | 芝信用金庫 | 城南信用金庫 | 城北信用金庫 | 昭和信用金庫 | 白河信用金庫 |
| 新庄信用金庫 | 須賀川信用金庫 | 栗鴨信用金庫 | 西武信用金庫 | 世田谷信用金庫 | 摂津水都信用金庫 | 仙南信用金庫 | 瀧野川信用金庫 |
| 多摩信用金庫 | 鶴岡信用金庫 | 東栄信用金庫 | 東奥信用金庫 | 東京信用金庫 | 東京三協信用金庫 | 東京シティ信用金庫 | 東京東信用金庫 |
| 二本松信用金庫 | 花巻信用金庫 | 浜松信用金庫 | ひまわり信用金庫 | 広島信用金庫 | 福島信用金庫 | 水沢信用金庫 | 宮城第一信用金庫 |
| 宮古信用金庫 | 目黒信用金庫 | 盛岡信用金庫 | 杜の都信用金庫 | 山形信用金庫 | 横浜信用金庫 | 米沢信用金庫 | |

後援

復興庁 経済産業省 関東経済産業局 2012国際協同組合年全国実行委員会
青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 宮古市 石巻市 気仙沼市 東松島市 いわき市 南相馬市 品川区 目黒区 大田区 世田谷区 川崎市
独立行政法人中小企業基盤整備機構 関東本部 東京商工会議所
全国信用金庫協会 東北地区信用金庫協会 東京都信用金庫協会 信金中央金庫

うめナビ号外

東京ドームで

63の信用金庫が共催!

「日本を明るく元気にする

「よい仕事おこしフェア」

11月1日開催!!

新しい「出会いの場」の創出!

「東北を明るく元気に!」

「自然エネルギーによる安心できる社会へ」



現在の日本は、円高・デフレの進行や産業の空洞化、そして「お金がすべて」という考えの蔓延、それに伴うモラルの崩壊等、政治、経済、社会等のあらゆる面で難題が山積され、加えて東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故故により、まさに危機的な状況に陥っている。

こうした状況を打破するためには、我が国の企業や組織が、「自分たちの国や社会を良くすることこそ、我々に与えられた最大の使命である」という高い志、理想と勇気を持って立ち上がり、みんなで力を合わせて問題を解決することで、日本再生への道を切り拓くよう積極果敢に行動することが必要

ではないだろうか。

こうした考えから、今回、企業はもちろんのこと、行政機関や教育機関、社会福祉団体等の同じ理想と志を持った社会のあらゆる層の方々が一同に会し、「つながり」や「絆」を結ぶ機会を提供して、新たな「出会い」や「結びつき」「助け合い」の中から国民経済の活力を取り戻そうという新たな取組みが実施される。それが、11月1日(木)、東京ドームにおいて東京都内、東北地方を中心とした63の信用金庫の共催によって開催される「日本を明るく元気にする」よい仕事おこし「フェア」だ。

「東北を明るく元気に!」「自然エネルギーによる安心できる社会

へ」をメインテーマに、東京から、東北から、そして日本各地から、地域の力が東京ドームに結集する!

なんと
630ブースが
ビジネスエリアには
421ブース

同フェアでは、東京ドームに630を超える企業、団体等の出展が予定されている。そこでは、製造業のモノづくりにかける熱い意気込みが伝わる製品の展示を始め、人と人が新たな出会いを生み出す「よい仕事おこし」につながる場となること請け合いである。「ビジネスエリア」には421ブースが出展。製造、加工、印刷、建築、通信、医療、福祉、環境など、多種多様な業種が集う。

「社会関連エリア」には、地方自治体や大学等の教育機関、社会福祉団体等も出展。また、中小企業の海外進出を援助するため、インドネシア、韓国、タイ、台湾、中国、ベトナムなど、アジア各国も出展する。



東北のおいしさいっぱい「駅弁祭り」



全国わんこそば選手権の予選を兼ねた「わんこそば大会」

「東北の被災地支援のために、各種イベントも開催!」

「東北の被災地支援のために、各種イベントも開催!」

「東北の被災地支援のために、各種イベントも開催!」

「東北の特産品」を展示・即売!
「気仙沼ふかひれ姿煮井」「大間まぐろ井」など
飲食ブースも充実

「東北支援・特産品エリア」には、東北地方の復興を願い、生産者の方の心のこもった特産品の販売や、ご当地グルメを提供する飲食店も多数出展。また、東北の美味しさいっぱい「駅弁祭り」や、迷ってしまっほどの銘酒が揃った「地酒祭り」のブースなどが出展する。東北地方の皆さんも、たくさんの来場を心待ちにしているに違いない。心から喜んでいただき、元気になって帰ってもらえるよう、皆で東京ドームに足を運ぼう。東京都民、神奈川県民の心意気の見せ所である。

「被災地復興支援のために、各種イベントも開催!」

東北のご当地グルメ



大間まぐろ井

石巻焼きそば

米沢牛コロッケ

男鹿しよつづる焼きそば

八戸せんべい汁

うに貝焼き

ふかひれ姿煮井

うねめ牛井

は、東北に元気になってもらいたいということで無償での参加。多くの方々の好意がフェアを支えている。

さらに、全国わんこそば選手権の予選を兼ねた「わんこそば大会」、新潟の「餅つき」等、様々な趣向を凝らしたイベントを用意している。東北地方のご当地キャラも集合するので、ビジネスマン以外の幅広い年齢層の方々にも楽しめる内容となっている。

シンボルタワーは被災地の子どもたちの「書」の心を展示!

ドーム中心部には、東北被災地の復興を祈って、被災地の子どもたちの「書」を展示した高さ6mのシンボルタワーが設置される。震災後、震災を振り返れなかった、口に出せなかった小さな子どもたちの心の叫びがそこにはある。被災地のことを忘れないため、そしてその復興を祈って、ぜひご覧いただきたい。

詳しくはホームページにて
(<http://www.jsbank.co.jp/fair/index.html>)



復興の願いを込めたフラガールショー